

# 経済・金融 フラッシュ

## インドネシア 10-12 月期GDP: 前年同期比+6.1% ～来年に選挙を控え、海外投資家の動向が鍵に

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

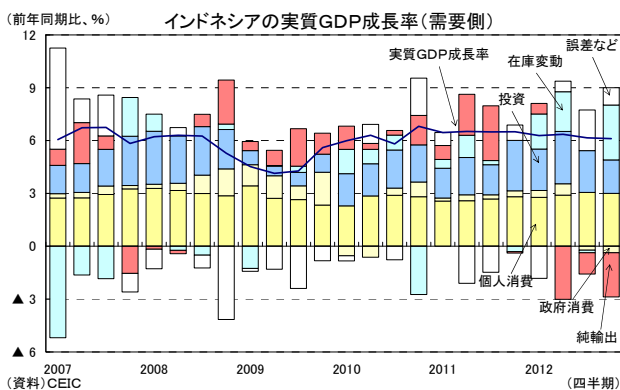
### 1. 高成長を維持

インドネシア中央統計庁(BPS)は2月5日、10-12月期の国内総生産(GDP)を公表した。実質GDP成長率は前年同期比(原系列)で6.1%の増加となり、7-9月期(同+6.2%)より若干悪化した。結果として2012年通年の成長率は前年比+6.2%となり、2011年の+6.5%から減速した。

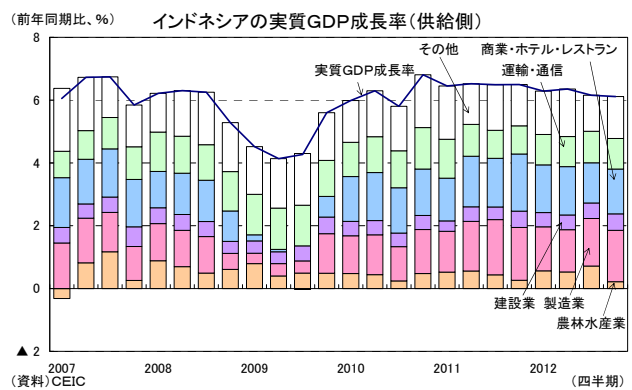
成長率の内訳を需要別に見ると、内需の減速と純輸出のマイナス寄与が目立っている。内需に関しては、投資が10-12月期には前年同期比+7.3%となり、7%は超えているものの、7-9月期(同+9.8%)より大幅減速、それ以前は2桁成長していたことを考えると急速に鈍化した感がある。また、10-12月期の政府支出は、前年同期比▲3.3%と7-9月期(同▲2.8%)に引き続き2期連続のマイナス成長となっており、これらが成長を阻害した。ただし、個人消費は前年同期比+5.4%と7-9月期なみ(同+5.6%)の成長を維持している。

純輸出に関しては、10-12月期の輸出は前年同期比+0.5%と7-9月期(同▲2.6%)から若干のプラスに転じた。ただし、輸入も前年同期比+6.8%と7-9月期(同▲0.2%)から大きく伸びたため、純輸出の成長への寄与は▲2.5%ポイントと7-9月期(同▲1.2%ポイント)から再び拡大した。

(図表1)



(図表2)



供給側を見ると、すべての産業でプラス成長を記録している。ただし、農林水産業の成長率が前年同期比+2.0%と7-9月期(同5.3%)から大幅減速、寄与度にして+0.7%ポイントから+0.2%ポイントまで縮小しており、これが10-12月期に成長率が減速した主因と言える(図表2)。一方、GDPシェアで約4分の1を占める製造業は前年同期比+6.2%と7-9月期の同+5.9%から加速した。サービス業も成長を牽引している商業・ホテル・レストランが前年同期比+7.8%と7-9月期(同

+7.2%) から改善し、好調だったといえる。

## 2. 海外からの投資に伸び悩みの兆しも

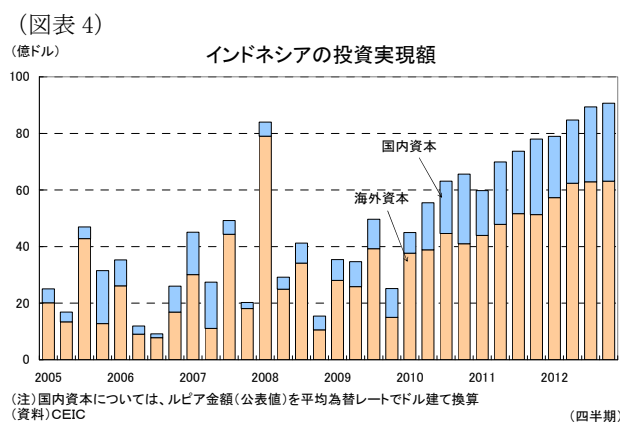
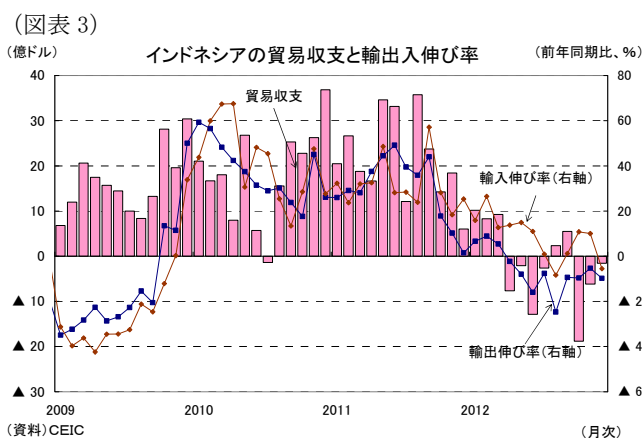
インドネシアは 10-12 月期も比較的好調さを持続し、6%を超える成長を達成した。消費者や企業の景況感も高く、メインシナリオとしては内需の好調さから今後も 6%台の成長が期待できる。

しかし、足もとでダウンサイドリスクも大きくなっていると考えられる。特に貿易の不振と国内情勢の不透明さがいくつかの弊害をもたらしていると言える。

貿易では、2012 年 4 月以降、輸出のマイナス成長が続いており、去年は年間で初めて貿易赤字を記録した (図表 3)。主要輸出品目である資源への需要が低迷したことに加え、政府が実施している未加工鉱物に対する輸出規制も貿易赤字の背景にある<sup>1</sup>。この貿易収支の悪化により、ルピア安が進行している。政府は、ルピア安による輸出再拡大を期待している面もあるようだが、資源需要は輸入国の経済状況で変化しやすく、通貨安によって輸出量が押し上げられる効果は限定的と思われる。一方、通貨安は輸入インフレをもたらす。足もとのインフレ率は安定しているが、今年は賃金の大幅値上げも実施されており、国内のインフレ圧力が強まっていけば、リーマンショック以降、緩和的な金融政策を取り続けてきた中央銀行も、金利を引き締めざるを得なくなる。

さらに懸念されるのは、順調に伸びている投資が鈍る可能性である。現在のところ株価は高値で推移しており、海外からの証券投資は堅調だと考えられるが、直接投資には伸び悩みの兆しも見られる (図表 4)。輸出規制や賃金の上昇は海外投資家にとってビジネスコストの増加であり、直接投資の流入が停滞すれば、成長の原動力だった投資が減速する懸念がある。また、来年には大統領選挙が控えており、今年政府の政策が国内目線のものになりやすくなる。加えて、ユドヨノ大統領は今期で任期切れとなる。選挙後に新大統領への引継ぎが円滑にすすむのかが懸念され、海外投資家にとっては積極的に投資できない環境となる。今までは輸出の低迷を内需でカバーしてきたインドネシアだが、内需のけん引役だった投資が減速すると、高成長は見込みにくくなる。

現在はこうしたリスクはそれほど顕在化していないが、高成長を持続するためには、政府が国内のビジネス環境に対する懸念を払拭し、海外投資家にとって魅力ある市場であることをアピールし続けることが出来るかが鍵になってくるだろう。



<sup>1</sup> 貿易赤字転落の原因としては、輸入側の要因もある。つまり国内の需要が強く、インドネシアへの燃料輸入が比較的堅調に推移していたことなども原因として挙げられる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。